

**令和8年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について**

保護者の皆様へ

白河市立大信中学校長

令和8年4月23日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は3年生で、国語、数学、英語の3教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、生徒の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部分であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率（英語はIRTスコア）の比較】

教 科	全国平均 正 答 率	下回って いる	やや下回 っている	ほぼ同じ	やや上回 っている	上回って いる
国語	63.9%	○				
数学	57.0%	○				
英語	499点	○				

※中学校英語はCBT（コンピューターテスト）のため、「IRTスコア」になります。

「IRTスコア」とは国際的な学力調査で採用されているテスト理論で、この理論を使うと異なる問題から構成される試験の結果を同じものさし（尺度）で比較できます。なお、標準点は500点となっております。

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	63.0%	○				
情報の扱い方に関する事項	70.4%			○		
話すこと・聞くこと	63.9%	○				
書くこと	67.4%	○				
読むこと	59.7%	○				

【考 察】

- 全体的に全国平均正答率を下回る結果でした。今後、「読むこと」の領域では、説明的文章の段落構成、目的に応じた必要な情報の読み取り、読み取った情報を自分の中で再構築するなどの活動の機会を増やしてまいります。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、言葉や語句の働き・識別・使い方の理解が不十分でした。日々の授業の中で、基礎・基本の定着を図ってまいります。

【数学：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	67.8%	○				
図 形	48.7%	○				
関 数	54.8%	○				
データの活用	53.5%	○				

【考 察】

- 各領域において、全国平均を下回りました。特に、基本的知識と問題文を正しく読み取る力が問われる問題に課題があります。今後は、計算の仕方や数学で使用される語句や定義の確認と、問題文から必要な情報を読み取り整理する力を身につけさせることができるよう指導していきます。
- 「図形」の領域では、課題が2つ見られました。2直線が平行になるための条件といった、図形の性質や関係を理解することと、作図におけるコンパスなどの道具の使用目的（等しい長さをつくること）を理解することです。基本的知識の定着が図れるよう授業づくりを工夫していきます。

【英語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

※英語については、公表されている問題が全体の５割程度であり、国語や数学のように領域の正答率が提供されていないことから、考察のみ記載いたします。

【考 察】

- 「書くこと」の領域では全体的に全国平均を下回っています。与えられた情報を基に、出来事を説明する英文を書く問題が特に課題です。単語や文法など知っている知識を、実際の場面で活用できる力を向上させるために、課題を適切に設定し、書いて伝える必要感を生徒が持ちながら、書く活動を充実させられるよう指導していきます。
- 「聞くこと」の領域では、ショッピングセンターでのアナウンスで行くべき階を聞くことや、住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する問題が全国平均を下回りました。必要な情報を聞き取る活動や、社会的な話題を聞き、要点を捉える活動に力を入れていきます。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 質問紙調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立大信中学校長

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について質問紙による調査も実施しましたので、一部ですがその結果及び考察をお知らせいたします。

特に、生徒の家庭学習の取組や授業の様子に関する調査結果を公表し、学校と家庭・地域の協力体制を強化していくことを目的としています。

この結果を、ぜひご家庭でも子どもさんと一緒に話し合っ、家庭生活の見直しに役立ててくださるようお願いいたします。

- 1 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

		できている	どちらかといえば できている	どちらかといえば できていない	できていない
中 3	全 国	27.4	50.8	18.6	2.7
	大信中	29.0	41.9	29.0	0.0

(単位 %)

【考 察】

- 「できている」、「どちらかといえばできている」生徒が7割でした。また、他の設問回答を見ると、インターネットを使って必要な情報を収集することができる生徒は9割でした。今後は、辞書およびタブレット端末等の効果的な活用を推進し、学び方がさらに工夫されるようにしていきます。
- 授業では、「個人での学び」と「協働的な学び」をバランスよく取り入れていきます。家庭学習では、生徒が「自分で選ぶ、自分で決める、自分で進める」学びを広げ、「自己マネジメント力」を向上できるよう指導していきます。

- 2 授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
中 3	全 国	8.9	21.2	31.5	19.5	11.5	6.9
	大信中	0.0	9.7	41.9	25.8	9.7	12.9

(単位 %)

【考 察】

- 本校では、60分以上の家庭学習を目標としていますが、1時間以上勉強している生徒は51.6%と全国平均の61.6%を下回りました。「全くしない」生徒が12.9%おります。「なりたい自分」や「行きたい高校」の実現に向け、学校での学びを家庭学習につなげられるよう支援していきます。
- 「自己マネジメント力」の向上のため、教室内のホワイトボードに、家庭学習でやるべきことを記載し「見える化」をしています。授業と帰りの学活時にフォーサイト手帳にメモをするよう促しますので、ご家庭でも言葉かけをお願いします。

3 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
中 3	全 国	29.3	49.7	17.2	3.2
	大信中	22.6	58.1	16.1	3.2

(単位 %)

【考 察】

- 授業で「何が分かり、何ができるようになったのか」や「どのように考えたのか」を、まとめる時間を確保しています。分かったことを繰り返し練習して、できるようにしたり、分からなかったことは質問して、分からないままにしないようにしたりして、家庭学習につながるよう指導していきます。
- 生徒の思考力・判断力・表現力の向上に向けて、授業のまとめと振り返りの時間を大切にするとともに、集団で学び合える授業づくりを目指して、教師の働きかけや問い返しの技術向上に努めていきます。

4 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていますか。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
中 3	全 国	37.4	47.8	11.1	2.7
	大信中	19.6	74.2	6.5	0.0

(単位 %)

【考 察】

- 「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせると、93.8%となり全国平均を上回りました。今後も、一人一人の学習の状況に応じて、適切な支援を行い、前向きに学習に取り組む意欲を高めていきます。
- 「できなかったところを振り返る工夫」を粘り強く続け、生徒の自己分析力アップを図っています。また、教師も学力調査や定期テスト等の誤答の分析を大切にし、指導力向上に努めます。